

シンガポールでシップウォッチング

2022.12.29 池田良穂

長いコロナ禍の中、海外にでることも3年間ありませんでしたが、ようやくシンガポール発着のRCIの「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」の4泊5日のクルーズに乗ることができました。12月29日発で、ペナン(マレーシア)とプーケット(タイ)に寄港しながらマラッカ海峡を巡るクルーズです。

久しぶりのシンガポールなので、セントーサ島の先端にある、船がよく見えるシャングリラホテルに3泊してシップウォッチングを堪能しました。従来のコンテナターミナルが縮小されて、西に巨大なコンテナ埠頭が建設され、ホテル敷地内の海岸から、沖合に停泊するたくさんの船と、港に出入りする巨大コンテナ船がよく見えました。また、以前乗船したシンガポール港内を巡る中華風観光船は姿を消していましたが、新クルーズターミナル(マリーナ・バイクルーズセンター)に隣接したマリーナサウスピアからは2社の島周りのフェリーが、ほぼ元の遊覧船と同じ航路で運航されていました。料金は1500円ほど。セントーサ島の南に浮かぶセントジョーンズ島とクス島に寄りますが、いずれも無人島で、マリンレジャー用に整備されています。船は通船を転用したもののようで、遊覧船僕はありませんが、デッキ上には展望デッキがあるのでシップウォッチングには十分でした。

シャングリアホテルから



シンガポールとインドネシアを結ぶ高速旅客船「マジスティック・ピース」。以下の高速船は、いずれも同じ航路に就航しています。



「クイーンスター5」



「クイーンスター1」



「シンドー12」



「ホライゾン 6」



「ジェットライダー バタムファースト5」



「エクセレンス・オブ・マジェステイ」



「シンドー31」



「ホライゾン 8」

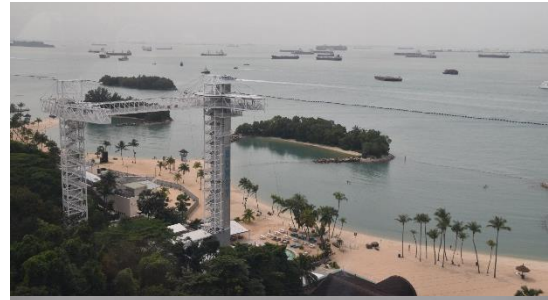


トリマラン型豪華ヨット「ホワイト・ラビット」



入港する巨大コンテナ背に「タラサ・ニキ」

セントーサ・ケーブルカーから



沖合に停泊するたくさんの船と、シンガポールとインドネシアを結ぶ高速旅客船の姿が見えました。



ブラニ島のコンテナターミナルは、新港ができたため機能の縮小が進んでいました。手前がセントーサ島のレジャー施設です。



旧クルーズターミナル。現在は、インドネシア行き的高速旅客船乗り場としてのみ機能しているようでした。



旧クルーズターミナル内に飾られていた「スーパースターヴァーゴ」の模型です。

マリーナサウスピアからの島巡りフェリー



マリーナサウスピアは、沖合に停泊する船舶への通船の基地ですが、沖合の2つの島を巡るフェリーの発着場にもなっています。このフェリーが、唯一のシンガポール港内の遊覧船となっています。10数隻が順番に運航されているようで、港では乗客の争奪戦が繰り広げられていました。



筆者が乗船した2隻のフェリーです。



マリーナサウスピアのすぐ横のマリーナベイ・クルーズ・センターに停泊していた「ゲンチン・ドリーム」です。ゲンチン香港は倒産しましたが、別の形でクルーズは運航されているようです。



フェリーは沖合に停泊する船の横を通って島に向かいますので、シップウォッチングを楽しむことができます。